

## 会 議 録

会議の名称	令和7年度第2回豊中市環境保全審査会		
開催日時	令和7年(2025年)11月19日(水)(10:00~11:30)		
開催場所	豊中市役所公園みどり推進課 会議室	公開の可否	<input checked="" type="checkbox"/> ・不可・一部不可
事務局	環境部環境指導課	傍聴者数	0名
公開しなかった理由			
出席者	委員	井ノ口委員、紀伊委員、小谷委員、前迫委員、宮川委員、余田委員	
	事務局	藤家部長、片羽次長、多々主幹、藤井係長、上原主査	
	その他	事業者 議題1:7名	
議題	1. 大阪国際空港周辺緑地に係る環境影響評価準備書について  2. その他		
審議等の概要 (主な発言要旨)	議事録のとおり		



【事務局】 ただいまから、令和 7 年度第 2 回豊中市環境保全審査会を開催させていただきます。 それでは、案件に入ります前に、本日の資料を確認させていただきます。

～ 資料確認 ～

「豊中市環境保全審査会規則」第 4 条第 2 項の規定に基づき、委員総数 7 名中 6 名のご出席をいただいておりますので、会議が成立しておりますことをご報告します。 なお、会議に先立ちまして、本日の会議は「豊中市環境保全審査会傍聴要領」に基づき進めておりますことを申し添えておきます。 それでは、会長に議事の進行をお願いいたします。

【会長】 はい、ありがとうございます。委員の皆様、朝早くからありがとうございます。今日は先ほど事務局からご説明ありました通り、大阪国際空港周辺緑地に係る環境影響評価準備書に従ってご説明いただき、ご意見を頂戴したく思います。どうぞよろしくお願いいたします。 早速ですが、事業者の方から準備書についてご説明いただけますでしょうか。

【事業者】 ～ 概要説明 ～

【会長】 ご説明ありがとうございました。では、委員の皆様よりご意見を頂戴したいと思います。特に順番は問いませんので、各分野からご指摘をお願いいたします。直接ご発言いただくか、手を挙げていただいても結構です。

【委員】 ご説明ありがとうございました。いくつか質問があります。まず、本文 6-1-6 ページの図 6-1-2 にある滞留車両台数について、これはどのように計測した値なのか教えてください。もう一点、夜間の騒音予測結果が今回基準値ぎりぎりなので、

その点が気になっています。6-1-8 ページに記載されている土砂運搬車両について、これは区画間を運ぶのか、それとも外部に運ぶのか教えてください。また、おそらく 11 ヶ月目にはパネルや部材の運搬があると思いますが、これも夜間に行うのか、どれくらいの台数になりそうか教えてください。以上です。

【事業者】 はい、ありがとうございます。滞留車両台数ですが、主要道路 6-1-2 ページ図 6-1-1 の調査地点にある B 断面で、主要道路までの滞留車両を調査交差点から特定しています。値は 1 時間での最大値をとっています。

2 点目の騒音についてです。夜間の基準値は 60 デシベルに対し、予測値も 60 デシベルとなっています。基準には適合していますが、どうしても夜間に車両を通行させる必要があります。これは、空港周辺のため高さ制限があり、工事用車両や建設機械のアームを上げる際に高さ制限にかかってしまうためです。昼間は飛行機が飛んでいるため工事ができませんので、夜間作業をせざるを得ません。その中で、3 点目のご質問にも関連しますが、2-12 ページをご覧ください。今回の工事計画地、実施区域を示していますが、基本的に土量は、この実施区域の中でバランスさせることを原則とします。土量の動きとしては、南側から下側の正方形で囲まれた部分に土を運ぶ形になります。可能な限り、北側の四角形の土量バランスを低減させ、60 デシベルよりも騒音レベルが下がるよう検討していきたいと考えています。

【委員】 はい、わかりました。もう一点、最後の質問ですが、パネルや部材はどれくらいの量になるのでしょうか。

【事業者】 パネル設置工事の車両台数についてですが、パネルと基礎の搬入はそれぞれ毎日 1 台程度を予定しております。大型車 1 台です。夜間工事の予測時では大型車が片道 20 台程度となりますので、パネル設置工事の方が台数としては少ないと想定

しております。

【委員】 はい、わかりました。ありがとうございます。

【会長】 他の委員の方からはいかがでしょうか。

【委員】 ご説明ありがとうございました。先ほどの委員の質問に関連して、夜間騒音について私も非常に気になっています。概要 6 ページの一番下の工事用車両の項目で、夜間の騒音レベルが 4 デシベル増加すると見込まれているとのことですが、これはかなりのインパクトのある数字だと思います。夜間作業でなければならないというご説明は理解しましたが、走行の仕方を工夫すれば可能な限り騒音を抑えられると思います。つきましては、工事車両に対して徹底した指導をお願いしたいです。この 4 デシベル増加という点について、どのようにお考えか、もう一度説明をお願いいたします。

【事業者】 はい、ご質問ありがとうございます。また、ご指導ありがとうございます。4 デシベル上昇することについては、我々も十分に認識しております。環境基準を満たしているとはいえ、現状より上昇することは重々承知しています。委員からのご助言にあった通り、走行方法については、今回の太陽光パネル工事運営の PPA 事業者に対して十分な配慮を伝達していきたいと考えております。また、工事については説明会等で住民の方々にも十分ご説明できると考えております。事業者としては、4 デシベル上昇することについて、元々空港には航空機騒音等があるという経緯を踏まえ、今回の夜間工事による騒音上昇に関しては、今後施工業者や太陽光事業者と十分に騒音低減策を講じるよう求めていきたいと考えています。当然、周囲の皆様の理解を得た上で空港運営と本事業を進めるべきと考えていますので、その点は十分に注意

を払いたいと思います。

【委員】 わかりました。ありがとうございます。自動車騒音に関して4デシベルの上昇があるとのことですので、先ほどのご説明にもあった通り、ドライバーの走行の仕方など、十分配慮していただきたいと思います。ご説明ありがとうございました。

【会長】 はい。お二人の委員の方、ありがとうございました。騒音については、飛行機騒音があるから問題ないという話ではないことをご理解いただき、騒音が4デシベル上昇するという現状の見込みに対し、1デシベルでも2デシベルでも負荷が下がるよう、努力をお願いいたします。引き続き、この分野でも他の分野でも結構ですので、ご意見ををお願いいたします。いかがでしょうか。

【委員】 ご説明ありがとうございます。私からは大気汚染に関するバックグラウンドの取り方について質問させていただきます。ページは6-2-3です。工事用車両の走行に伴う大気汚染予測において、バックグラウンドの濃度に伊丹市役所の一般大気測定局のデータが用いられています。対象地域から最も近い測定局は、おそらく豊中市役所の自排局だと思われるのですが、自排局の方が窒素酸化物や粒子の濃度が通常高く出る可能性があります。今回、そのあたりの評価比較を行った上で伊丹のデータが採用されているということによろしいでしょうか。

【事業者】 はい、ご質問ありがとうございます。バックグラウンドの考え方について説明させていただきます。今回伊丹市役所を採用した理由は、まず伊丹市役所が風向風速、窒素酸化物、二酸化窒素、SPMの全ての項目を測定している場所であるためです。もう一つは予測方法についてですが、自排局を使う場合は同じ交通量の場所が望ましいと考えています。現状、同じ交通量の自排局が近くになかったため、伊丹市役

所を選定しました。予測方法としては、伊丹市役所のバックグラウンド値に対し、現状の一般交通量の発生量（SPM、二酸化窒素）を加味し、さらに工事車両の発生量寄与率を与えて計算しています。

【委員】 ご説明ありがとうございます。イメージですが、伊丹市役所は横に国道171号線が走っているので、交通量が非常に多く、濃度も豊中市役所の自排局よりも高くなって今回採用されたのかと思っていました。そういうわけではないということですね。

【事業者】 そうですね。値の大きい方を選定したというよりは、先ほど申し上げた通り、この周辺の一般大気の代表地点として伊丹市役所のデータを用い、それに一般交通量（一般車両）の発生量を加味し、さらに工事車両の発生量を加味して計算するという考え方です。

【委員】 ありがとうございます。よくわかりました。

【会長】 はい、ありがとうございます。他にいかがでしょうか。

【委員】 2点質問があります。1点目は単純な質問ですが、2-13ページあたりを見ると、現地には木々が生い茂っている場所があるかと思いますが、それらの木は残されるということによろしいのでしょうか。2点目は、6-8-2にある二酸化炭素の話です。こちらの原単位を使って排出削減量が推定されていると思いますが、この太陽光発電による電力は大阪国際空港内で消費することを想定しているのでしょうか。その場合、時間帯によって供給が需要を上回る可能性はありますか。もし空港内での消費を考えているのであれば、空港の電力需要の何割を賄うことを想定しているのか教えてください。

てください。お願いします。

【事業者】 まず、既存樹木の取り扱いですが、基本的に民地側、特に住居のある方向の樹木は、ある程度厚みを持たせて残します。ただし、2-13 ページにある最も厚い緑地帯の一部は、太陽光パネル造成の設置上、一部伐採させていただく形で考えております。2 点目の質問ですが、消費電力については伊丹空港内で消費することを前提としています。時期や時間帯によって発電のバランスは当然変動しますが、空港のターミナルビルの消費電力量の約 2 割を賄えると考えております。先ほど冒頭でもお話ししました通り、空港の目標である 2030 年の 2013 年比 46%削減は空港内ですでに達成しています。今回の太陽光パネルは、2050 年の二酸化炭素排出量実質ゼロに向けた取り組みとして現在計画しているものです。

【委員】 質問させていただきます。今おっしゃったように、2030 年度はネイチャーポジティブの観点から生態系の劣化を止め、2050 年には自然共生社会を作るといふ、環境省をはじめ世界で掲げる大きなテーマです。今回のゼロカーボンは、その方向へ努力されていると感じます。一方で、生態系に関するご説明が少なかったように感じましたので、その点を質問させていただきます。生態系への配慮は当然されていると思いますが、絶滅危惧種であるシルビアシジミとキツネの 2 種を挙げておられます。キツネについては説明が少なかった点が 1 点。シルビアシジミについては、どの程度生態系、生活史を把握した上でパネル設置を検討されているのでしょうか。46%削減というゼロカーボンの目標値はかなり達成されているようですが、生態系保全の視点からどのような配慮をされているのか。これはシロツメクサを植えれば良いという問題ではありませんので、生態系への視点についてお聞かせください。よろしくお願いいたします。



【事業者】 はい、ご質問ありがとうございます。まず 1 点目、キツネの説明について補足します。キツネですが、この実施区域において 1 ペア確認されています。巣穴の場所は 2-13 ページの緑を残す部分になります。このあたりは基本的に手をつけない計画です。その地点を守るだけで大丈夫なのかというご懸念もあるかもしれませんが、我々の調査で、キツネの糞がこの敷地内に大量に見つかっています。キツネの糞を 11 個採取し内容物を確認した結果、このキツネの個体群、1 ペアのみですが、糞の内容から昆虫類、特に甲虫類や果実の種子、植物片を食べていることが分かりました。巣の周りにはコンビニの袋やパンの袋といった人工物が大量に見つかりましたが、動物の残骸、例えば骨やネズミ、モグラの類は見つかりませんでした。このことから、このキツネはおそらく、このような草原で齧歯動物などを捕食しているのではなく、人工物に依存して生きているのではないかと考えられます。以上のことから、パネルを設置して一時的に昆虫類が育つ場所がなくなるとしても、再度植生を回復させますので、キツネへの影響は軽微であろうと考えております。もう一つ、シルビアシジミという大変貴重な蝶がここで確認されています。これまでの知見として、空港周辺および猪名川の河川敷等で、このシルビアシジミが日本全国でも珍しいほど個体群を維持していることが確認されています。その理由として、このシルビアシジミの個体群が食草転換を行い、これまでのミヤコグサのような在来種ではなく、シロツメクサ等の外来種に転換しているのではないかと想定されています。その上で、我々としてはミヤコグサを植えるのではなく、現在適応しているシロツメクサを植えていくことを考えております。パネル設置後もそうした場所でシルビアシジミが生きていけるかという懸念はありますが、まず工事期間中は、先ほど申し上げた通り、空港周辺や伊丹・猪名川周辺でかなりのシルビアシジミが見つかることから、この事業実施区域で一時的に生息域が消滅しても、周辺で個体群が生き残り、工事後に植生を復活させれば再び戻ってくることを想定しています。

【委員】 ご説明ありがとうございます。キツネについては承知いたしました。現在の繁殖地は緑地として維持し、樹木もともに維持されるとのこと、狭いエリアではありますが、理解しました。シルビアシジミについては、おっしゃる通りメタ個体群として周辺に維持されているとのことですが、パネルを設置することでその生息地が失われるメタ個体群があることは考慮すべきです。一時的かどうかは不明で、実際にやってみたら局所的に絶滅すること考えられますので、それは推測に過ぎません。シロツメクサに食草転換したというのは、転換せざるを得ない状況にあったのであり、決して良いことだとは思いません。蝶がそうした外来種で維持されている状況が増えているのは、生態系として良い方向ではなく、やむを得ず劣化の方向へ動いている、つまり動物が生きていくために適応せざるを得ない状況を作り出しているということだと思います。そこで、今おっしゃったようにミヤコグサが在来種としてシルビアシジミにとって本来重要な食草であると思いますが、この緑地内にミヤコグサがどれくらい維持・生育しているのか、あるいはミヤコグサ自体がなくなって全面シロツメクサになっているのかという点が１点。もう一つ、シロツメクサはかなり上に伸びてくる植物ですが、シルビアシジミは鬱蒼とした緑地全体を好むのではなく、むしろミヤコグサのように低く這うような、ところどころ裸地的な場所も含めて好む蝶であると、おそらく調査で把握されているかと思います。そう考えた時、ミヤコグサの個体が群落として部分的にパッチ状に残っているのであれば、それを維持する形で、あえて外来種であるシロツメクサへの転換を図るのではなく、ミヤコグサの維持、あるいは縮小しているのであればそれを増大させる形で維持できないかと考えます。ただし、そのような場合、造園業者に発注すると外来種のミヤコグサが持ち込まれる可能性も危惧されますので、その点は十分に留意いただく必要があります。シロツメクサを造成後に植えれば維持されるであろうというのは、やや推測に過ぎない点もあるため、十分な配慮をお願いしたいというのが１点です。もう１点は、ここは緩衝緑地としても機能していることはご存知の通りで、それは関西エアポートさんの努力、つまり空港

の特性と関連していると思います。資料 2-13 ページを見ると、かなり密にパネルが敷き詰められている状況です。ここを、例えば部分的にパネルを抜いて空き地を作り、光を入れても、シルビアシジミが利用するには広いスペースがないと難しいとは思いますが、緩衝緑地の機能を維持させるという意味で、もう少し道路側、つまりパネルをぎりぎりまで置くのではなく、道路側の緑地を維持する形でパネルの枚数を減らすことはできないでしょうか。現状 46%削減と算出されていますが、これが 40%程度に下がってしまう可能性もあるかと思います。しかし、生態系保全とゼロカーボンを両輪で進めるような案にならないかと考えます。即答は難しいかもしれませんが、そのような視点についてご検討いただければ幸いです。

【事業者】 シロツメクサを植えれば良いとは考えておらず、環境には十分に配慮してまいります。まず、資料 2-4 ページの全体地図をご覧ください。計画地の周辺には、空港が緩衝緑地帯として使用している土地がまだ残っています。一つは、図の中央にある白く抜けた正方形の土地です。ここは空港の土地であり、豊中市様のグラウンドとして利用されています。その周辺にも緑地帯があります。また、伊丹へ抜けるトンネル道路の脇にある、計画地に食い込んだような部分も、現在豊中市様にお貸しして地元の方々が花畑として利用されています。このように、当該地での生息地が一時的に消滅したとしても、生物が移動できる場所は確保されていると考えています。これらの場所も踏まえ、本事業では今後、生物が戻ってこられるような環境を創出していきたいと考えています。次にミヤコグサについてですが、今後の状況を確認し、どのように対応すべきか検討いたします。補足として、現地調査の結果、ミヤコグサは確認されませんでした。セイヨウミヤコグサは見つかっており、セイヨウミヤコグサとシロツメクサへの産卵が認められています。

【委員】 ありがとうございます。ご説明はよく理解しました。現在セイヨウミヤコグ

サやシロツメクサに蝶が来ているため、そこに戻すという考え方は自然だと思います。しかし、この機会にゼロカーボンを掲げ、そこに貢献されるのであれば、生態系保全というもう一方の側面も考慮し、より良い緑地を目指していただきたいと思います。現状では外来種が広く見られますが、ここが本来のミヤコグサの生育地であるか否かに関わらず、シルビアシジミだけでなく他の昆虫も含め、在来種を呼び込むことで、より豊かな緑地を形成していただきたいと思います。これは環境影響評価の本質的な部分ではないかもしれませんが、生態系保全は環境影響評価において重要な視点です。緑地が減少する部分について、パネルの設計を一部変更し、枚数を減らすことで緑地面積を広げることが可能であれば、ぜひご検討いただきたいと思います。強制するものではありませんが、ご検討いただければより良いものになるかと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

【事業者】 ご意見は当社として承りました。その旨をお伝えさせていただきます。

【委員】 はい、ありがとうございます。十分受け止めていただけたと思います。ゼロカーボンと生態系保全を両輪で進めていただくことが、このアセスにおいて非常に重要な視点だと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

【委員】 初歩的な質問で恐縮ですが、パネルの下に緑化するというお話について伺います。景観等への配慮として実施されとのことですが、太陽光パネルの事例で火災等のリスクや、一般的にパネルの下では生育に差が出るのではないかという点が気になります。そのあたり、あるいは管理コストについてどのようなお考えがあるのか確認させてください。よろしくお願いいたします。

【事業者】 こちらは別の案件の太陽光パネル設置事例の写真です。パネルの下には空

間があり、その下に主にシロツメクサが敷き詰められています。ご覧の通り、太陽光パネルの下でも植物が生育している様子が確認できます。火災等につきましては、太陽光パネルが火災を起こす危険性も考慮し、消防等と協議しながら管理していきたいと考えております。よろしいでしょうか。

【委員】 ありがとうございます。確認いたしました。

【委員】 はい、ありがとうございました。この写真は、ちなみにどこの地域、何県で実施されたものか、お分かりでしたら教えていただけますか。

【事業者】 申し訳ございません。今すぐにはお答えできません。事務局を通じて回答できるよう手配いたします。

【委員】 承知しました。パネルを置くと日照条件だけでなく、土壌条件も湿気がちになり、オープンサイトとは環境が変わることもあります。写真を見る限り、生育しているようにも見えますが、パネルを密に敷き詰めることによる土壌条件の変化もあるかと思います。ただ繁茂すれば良いというものではなく、昆虫類も微妙な環境を好む種もあり、部分的に裸地があることは良いのですが、狭いと利用しないという点もありますので、なかなか悩ましいところです。よろしくお願いいたします。

【事務局】 先ほどの写真の空きスペースは、今回設置する予定のスペースと同程度と考えてよろしいでしょうか。

【事業者】 準備書 2-14 ページに記載している太陽光パネルの設置事例です。現在の計画では、太陽光パネルの間、北面で見ると、東西から見て 1.3 メートルほどの離隔

を取る計画です。先ほどご覧いただいた写真よりはもう少し離れているかと思いますが、少なくとも離隔を取ることで、シルビアシジミやその他の昆虫の飛翔空間、飛翔経路が確保できると考えております。

【会長】 はい、ありがとうございました。いかがでしょうか。

【委員】 恐れ入ります。ちなみに、先ほど見せていただいた事例は、シロツメクサのような背の低い植物が生えるイメージでしたが、今回もそのようなイメージで考えておけばよろしいでしょうか。

【事業者】 はい。現在の植生としては、背丈の低い定型草本類を優先して生育させ、管理していくことを考えております。空港の現在の植生もそうした定型草本類が主ですので、それに合わせていきたいと考えています。

【委員】 ありがとうございます。

【会長】 はい、ありがとうございます。他にいかがでしょうか。今回の準備書に対するご意見をいただきましたので、これをもって審査会での審議は終了となります。今後は、いただいたご意見が準備書に反映されているかどうかの確認や、改定すべき点の修正という流れになるかと思います。審査会としては今回が最後となりますので、何かお気づきの点がございましたらお願いします。事業者の方にはお願いですが、些細なことですが、今後改定される際に、例えば 2-4 ページのような全体地図の配置と、パネルを置く 2-13 ページの方向が逆になっているため、常に頭の中で反転して見るような状況です。体裁的なことで恐縮ですが、地図の方向を全て合わせていただけると幸いです。

【事業者】 申し訳ございません。その点、配慮が足りませんでした。次回からは地図の方向を合わせるようにいたします。面積が広いため、ご不便をおかけしました。訂正いたします。ありがとうございました。

【会長】 委員の皆様から、どのようなことでもお気づきの点がございましたら、よろしく願いいたします。

【事務局】 事務局から 1 点よろしいでしょうか。先ほど委員から質問があったかと思いますが、日中の最大発電量が出た際に、その電力が全て空港内で使用できる量なのかどうか、という点です。その点について、まだご回答いただけていなかったかと思いますが、いかがでしょうか。

【事業者】 ピーク時には一部使い切れない電力が発生します。それを考慮して、空港内電力の 20%を賄う計画です。

【事務局】 その場合、蓄電池なども設置する予定でしょうか。それとも売電されるのでしょうか。

【事業者】 蓄電池は予定していませんし、売電はしません。

【会長】 はい、ありがとうございます。委員からのご質問については以上でよろしいでしょうか。他に何かございましたらお願いします。なければ、これをもって本件に関する審議は終了といたします。よろしいでしょうか。それでは、特段のご意見がなければ、続いて環境保全審査会としての意見書案の作成に入りますので、事業者の方

はご退室をお願いいたします。

【事業者】 はい、本日お忙しい中ありがとうございました。これで失礼いたします。

～ 事業者退室 ～

【会長】 事務局に伺います。この意見書案の作成は、ここで再度確認すること  
でよろしいでしょうか。

【事務局】 はい、今からご説明しますので、委員の皆様からご意見をいただき、審査  
会の意見書案としてまとめさせていただきます。よろしくお願いいたします。

【会長】 はい、承知いたしました。意見書案は私の方には届いていると思いますが、  
委員の皆様にも届いておりますでしょうか。

【事務局】 昨日、Zoom のミーティング ID をメール送付した際に添付しております  
ので、そちらをご覧ください。こちらでも画面共有させていただきます。

【会長】 はい。委員の皆様のお手元にも意見書案が届いているとのことですので、こ  
れから共有される内容についてご意見を頂戴したいと思います。どこからでも結構で  
すので、最初の文面から 6 項目のその他事項まで、作成された意見書についてよろし  
くお願いいたします。

【事務局】 ～意見書案の説明～

【会長】 では、この意見書についてご意見を頂戴したいと思います。どの項目からで



も結構ですので、お気づきの点がございましたらお願いいたします。

【委員】 生態系について少し変更させていただければと思います。文案はまだきちんと考えていませんが、「事業計画を進めるにあたっては、特に注目すべき動植物とか植生の影響はないとされているが」という部分です。「ない」とされている点がそもそもないわけではないので、その表現は変更していただきたと思います。影響はないとされているのは、事業者がそう言っているからかもしれませんが、パネルを置く以上、現在の植生は一度なくなりますし、植え戻すとしても、影響は十分に考えられます。「ない」とされている、という表現を変えていただきたと思います。生態系保全については記載がありますが、その後の「太陽光パネル下の植栽については、日照不足により植物が枯れないような品種を選定する」という部分も適切ではありません。現在、シロツメクサが例として挙げられていますが、日照不足で枯れない品種を選ぶのではなく、現在のパネル設置による日照下でも育つような状況にし、パネルを設置することで真っ暗になるような配置は避けるべきです。ここはシルビアシジミの名前を出すかどうかは別として、生息地として維持可能な植生が再生されるような種を十分に配慮して選定してほしいという方向に文書自体を変更していただきたと思います。この文章はまだきちんと提示できていませんが、何点か修正すべき点があるかと思いますが、事務局でも検討をお願いいたします。

【事務局】 はい、ありがとうございます。事務局で文案を検討させていただきます。

【委員】 はい、言い忘れましたが、生態系保全という言葉でまとめることも可能ですが、緩衝緑地としての機能と、動植物の生息地としての機能を明記していただいた方が良いかと思います。先ほどの質問ではパネルを一部撤去する案は却下されそうな状況でしたが、緩衝緑地としての機能と生態系としての機能を維持することは強く主張

しておきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。私も改定案を拝見したく  
思います。

【事務局】 はい、ありがとうございます。

【会長】 他によろしくをお願いします。他の委員からはいかがでしょうか。

【委員】 はい、ありがとうございます。先ほどの環境負荷の太陽光パネルに関して、事務局から確認いただきありがとうございました。使い切れるものと認識していましたが、余剰電力が発生する可能性があることを確認できて良かったです。その際、書き方として、設置されたパネルの電力を合理的な範囲で最大限活用できるよう、今後の運用で配慮するという文言を盛り込んでも良いかと思います。発電して捨ててしまうのであれば、何らかの活用策を講じるべきです。例えば、空港には今後電気自動車などが導入されると思われますので、余剰電力が発生する時間帯に優先的に充電するような運用ができれば、あえて蓄電池を設置しなくても活用できる余地があるかと思います。そのような合理的な配慮を促す文言を入れることを提案いたします。

【事務局】 はい、ありがとうございます。

【委員】 恐縮ですが、素人考えで申し訳ありませんが、もし電力量に余剰が見込まれるのであれば、パネルの数をもう少し減らしていただくことはできないでしょうか。年間で過不足はあるかと思いますが、今は何でも量が多ければ良いという時代ではありません。適正なパネル設置を強く望む意図が伝わる文案があれば、委員がおっしゃるように、電力を有効利用することも重要ですが、利用できないのであれば、適正なパネル設置を望みたいと思います。この点についてはいかがお考えでしょうか。

【委員】 ありがとうございます。太陽光パネルは時間帯によって発電量が大きく変動します。そのため、発電量が需要を上回ることもあれば、不足して外部から購入することもあります。おそらく現在の容量は、その過不足を考慮して最適な状態を想定しているのではないかと思います。しかし、おっしゃる通り、もし本当に余剰電力が発生し続ける状態であれば、パネルの量を減らした方が空港会社にとってもメリットがあるでしょう。そうした合理的なパネル設置について検討を促す文言があっても良いかと思います。以上です。

【会長】 ありがとうございます。この点は先ほど事業者に聞ければよかったのですが、意見書を提出することで行政と事業者間で議論していただけるかと思うので、行政の方でこの点もよろしくお願いいたします。

【事務局】 はい、ありがとうございます。

【会長】 他の委員の皆様、改定すべき点がございましたら、よろしくお願いいたします。もしなければ、会議としてはこれで終了し、後日メールで事務局にお知らせいただく形で問題ありません。またお知らせください。この修正案については、事務局と会長で最終調整を行い、委員の皆様に確認していただく予定です。これでよろしいでしょうか。

～ 異議なし ～

これ以外にご意見がありましたらご発言をお願いいたします。よろしいでしょうか。はい、ありがとうございます。では、以上をもって本日の案件は終了しましたので、進行を事務局にお返しいたします。よろしくお願いいたします。

【事務局】 はい、会長、委員の皆様、ありがとうございました。その他、皆様にお知らせが1点ございます。現在、新たな環境影響評価の提出を予定している事業者から相談を受けており、今年度中に再度開催を予定しております。日程調整等ご協力いただきながら、開催させていただきます。予定としては令和8年1月もしくは2月になるかと思いますので、引き続きよろしくお願いいたします。本日、長時間にわたりありがとうございました。これにて第2回豊中市環境保全審査会を終了させていただきます。ありがとうございました。

【会長】 はい、ありがとうございました。委員の皆様、事務局の皆様、ありがとうございました。